

定期船「おおうら」で通学する船越中学校の生徒（昭和39年、浦の浜）  
 ≡元山田町在住・及川寿郎さん撮影≡



▲町営ブロックセンター  
 (昭和36年ころ、豊間根)  
 住宅不足を解消するため  
 漁民アパート建設に使う  
 ブロックを製造した

山田町合併  
 50周年記念企画  
*History*  
 of Yamada town

昭和35年～39年

定期船で通学した

あの時  
 あの時



小林 剛士さん  
 (大浦・54歳)

当時、浦の浜にあった船越中学校に定期船「おおうら」で3年間通いました。船はいつも混んでいてとてもにぎやかでした。学校に行くときは毎日船で通いましたが、帰りは部活動で遅くなる事が多く、友達と遊びながら大浦街道や、山を越えて帰りました。運動に自信のある生徒は、棧橋に船が接岸する前から棧橋に飛び下りる生徒もいて、誰が先に陸上に着くか棧橋の端まで競争していました。冬場の雪が多いときも飛び跳ねていたのでは考えられませんね。棧橋の上ではふざけ合って、棧橋から落ちる生徒もいました。夏場には棧橋の脚に板を貼り付けて、水泳部はターンの練習や棧橋の上から飛び込みの練習をしていました。大雪の日に船が来ないという情報が入り、ひざまである雪の中を歩いて帰っていったら大浦崎で追い越された苦い思い出もあります。平成9年には定期船「おおうら」も廃止になり残念です。あの時がとても懐かしいですね。



▶わかめの口開け(昭和39年、前須賀海岸)  
 ≡元山田町在住・及川寿郎さん撮影≡



岩手船越駅に停車したSL(昭和39年)  
 ≡元山田町在住・及川寿郎さん撮影≡

■主な出来事

| 元号(西暦)          | 主なできごと                   |
|-----------------|--------------------------|
| 昭和35年(1960) 5月  | チリ地震津波が襲来                |
| 昭和36年(1961) 4月  | 織笠、大沢の役場支所を廃止            |
| 5月              | 三陸フェーン災害                 |
| 昭和37年(1962) 4月  | 陸中山田駅が改築落成               |
| 昭和38年(1963) 11月 | 織笠保育園を開設                 |
| 12月             | NHK、IBCのテレビ中継所が開所        |
| 昭和39年(1964) 4月  | 新住居表示制度により旧山田地区の土地の名称を変更 |



チリ地震津波の  
 惨状(昭和35年、  
 北浜町) ▶

チリ地震津波が襲来

山田町合併五周年を迎え、財政再建団体からの脱却に向けて走り出した矢先の昭和三十五年五月二十四日、チリ地震津波が襲来。一朝にして十二億九千三百万円の貴重な財産が失われました。昭和八年の三陸津波から二十七年が経過し、津波の記憶を忘れかけているときでした。町では直ちに対策本部を設置。町議会緊急協議会を招集し、応急対策に当たりました。通信、交通の断絶という最悪の条件の中で、大釜崎ロラン局から茨城県波崎局、さらに海上保安部、県警本部を経由して県対策本部との連絡に成功しました。次に鉄道の復旧を機に陳情、各種団体、学校、自衛隊の出動を得て、応急対策は完了しました。